

朋友だより

今年初めての朋友だよりをお送りします。
型やぶりのトランプ米大統領の出現によって、世界に様々な波紋が広がっています。
最近話題になっている「ポスト真実」について考えて見ました。
ご参考になれば幸甚です。

2017年2月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



「ポスト真実」ということ



ポスト真実とは

今年に入って「ポスト真実」という言葉があちこちで聞かれます。この言葉は英オックスフォード辞書が 2016 年 11 月に、「非常に緊迫した」政治的な 1 年を反映する言葉として選んだものです。客観事実より感情的な訴えかけの方が世論形成に大きく影響する状況を示す言葉として使われます。

「ポスト真実」の政治とは事実に基づかない主張、つまり嘘・偽りを繰り返すことで、人々を扇動し、うねりをつくり出す政治を示す言葉です。典型的な例が昨年アメリカ大統領選挙期間中のトランプ氏の演説です。

アメリカのサイト「ポリティファクト」(2008 年にピューリツァー賞を受賞している)は、選挙期間中のトランプ氏の発言は 7 割が嘘であったとしています。

しかし、この「ポスト真実」の政治は、アメリカだけの現象ではなく、現在のわが国の安倍政権のもとで、随所に見られます。福島原発事故の汚染水対策の見通しすらないのに、「状況は完全にコントロールされている」と表明した安倍首相の言動はその典型の一つです。

事実に基づかない嘘・偽りの言動が横行する安倍政権の姿勢について、言葉を大切にす歌人が声をあげました。「朝日」歌壇の選者をつとめる歌人の永田和宏氏が同紙の新春詠に寄せた短歌「不時着」の 2 首です。

不時着と言ひ替へられて海さむし
言葉の危機が時代の危機だ

Post-truth^{よそごと}他所事ならず
無表情に衝突と言ひて去りゆく女人

前の句: 昨年、沖縄で米軍オスプレイ機が海に墜落、大破する事故がありました。これを日本政府は、米軍の発表通り「不時着」と言い替えています。

後の句: 現在、自衛隊が南スーダンに派遣されています。現地では、内戦状態にあり、戦闘が繰り返されているのは国連などの報告で明らかです。日本政府を代表した稲田朋美防衛相は、戦争状態であることは認めず、単なる「衝突」と表明しています。

「文化というのは言葉です。言葉はたんなる手段ではない。言葉に対する慎みを失ったら、これはどうしようもない」とは永田氏の弁です。

日本には苦い経験がある

事実を事実と認めず、事実に基づかない嘘や偽りが横行するとどうなるでしょう。日本には非常に苦い経験があります。

第二次世界大戦の戦前・戦中の日本がまさにその様な状況下におかれまして。政府・軍部の発表のみを聞かされた全ての国民は、正しい戦争、負けることのない戦争と思ひ込まれました。その為に国民は「勝つまでは」、我慢することを強いられました。

しかしふたを開けて見たら、とんでもない事態に日本全体が、駆り出されていました。アジア諸国の人達に取り返しのつかない被害を与えた上に、日本国民自身も原爆投下、大空襲、そして沖縄戦の悲惨な結末等を味わうことになったのでした。

日本が無条件で受け入れ、戦争終結の原動力となったポツダム宣言(1945年7月26日)の第6項は、下記の通りです。

6. [軍国主義勢力の除去]

吾等は無責任なる軍国主義が世界より駆逐せらるるに至る迄は、平和、安全及び正義の新秩序が生じ得ざることを主張するものなるを以て、日本国民を欺瞞し、之をして世界征服の拳に出づるの過誤を犯さしめたる者の権力及び勢力は永久に除去せられざるべからず

日本と同じように軍国主義(ファシズム)が政権をにぎり、国民をだまし、世界に多大な迷惑をかけた国として、ドイツ、イタリアがあります。ドイツの戦前・戦中の国の指導者の誤りに対する総括は見事です。きちんとした総括に到達するまでに10年、20年の困難な時期を経たあと、国内法でナチスの戦争犯罪、人道に対する犯罪を裁いています。

ところが残念ながら、わが国では、戦前・戦中の軍国主義(ファシズム)に対する総括は、東京裁判任せで、現在に至るまで、国内法ではなされていません。ここに戦後のわが国の独立国としての不十分さが現れていると考えています。現在の安倍政権に見られるポスト真実の政治に警戒する理由もその点にあります。

ポスト真実の政治は、ファシズム(軍国主義)に行きつくことは、東洋西洋を問わず歴史の教えるところです。ファシズムは個人の個性を認めません。個性は完全に抹殺されます。日本国憲法の中核である第13条「すべての国民は個人として尊重される」が否定されます。

戦前・戦中の日本では、治安維持法が猛威を振りました。戦争及び政府・軍部に批判的な人達は徹底的に弾圧されました。そしてあの無謀な戦争へと突き進んだのです。

現在政府が法律化を狙っている「共謀罪法案」(政府はテロ等準備罪に対する法案と称している)は、まさに現代版の治安維持法であり、絶対に認めるわけにはいきません。

中小企業の現場に置きかえて考える

ポスト真実を中小企業の経営に当てはめるとどうなるでしょう。

一つは企業の計画立案の時、事実に基づかない架空の事象を勝手につくり上げ、それを基礎に戦略なり、作戦を立てる場合がそれに該当するでしょう。このようにしてつくられた戦略や作戦は、実践すれば間違いなく、100%失敗します。実践によって、嘘・偽りであることが実証されます。

今一つのケースとして、社内に嘘・偽りが横行し、社内の会議などで虚偽の報告がまかり通る場合があります。この様な企業は、遠からず、顧客からの信用を失い、倒産の道を歩むことになるでしょう。

このように中小企業の現場では、ポスト真実はそれほど時間を置かずに実践で虚偽であるとの判定が出ます。従って誤りは比較的早い段階で修正されると考えられます。

しかし、政治の世界ではそのようなわけにはいきません。結果が明らかになるのに時間がかかります。日本の戦前・戦中の歴史が示す通りです。その上、結果が出たときには壊滅的な被害が出てしまいます。何としても未然に防ぐ事が必要となります。

真実・事実を大切にする心

どのようにしたら、ポスト真実の政治を克服する事ができるでしょうか。

国民一人ひとりが賢くなり、真実・事実を大切にする心を育て、本質を見抜く力を養うことが求められます。そして日本の民主主義を今一步、成熟したものに育てていく必要があります。

その点、アメリカの民主主義は成熟しています。トランプ大統領の「移民の入国制限」の大統領令に、連邦裁判所が「待った」をかけました。三権分立が定着していると感じました。

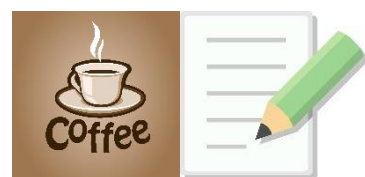
日本はまだ未熟です。行政府の長が立法府の長でもあるように振るまったり、最高裁判所が「高度に政治的な問題である」との理由で、憲法判断と避けるケースがしばしば見られます。

今一つ求められることは、歴史、特に日本及び世界の近代、現代について正しい認識を持つことです。

私の好きな言葉を紹介します。

過去を知らなければ、今日は生きていくことができても、未来は創造できない

(和歌山県田辺市 引揚港田辺資料館)



鎌田浩毅著 『地球の歴史(上)、(中)、(下)』 を読む

鎌田浩毅著『地球の歴史(上)、(中)、(下)』(中公新書 2016年10月)を読みました。鎌田氏が若い頃アメリカの物理学者ジョージ・ガモフが書いた科学読み物を夢中になって読み、科学に興味を持つようになったが、日本にはガモフがいないことに気付き、自分が彼をモデルにして啓発・教育活動に力を入れ始めた。(上巻P.14) 本書はこの様な思いで書かれた本です。

宇宙生成の初めから、地球の誕生、地球と生命の相互作用と共進化、日本列島の誕生と進化、人類の誕生と歴史時代の環境変動などの最新の科学の成果を壮大なドラマとして描いています。上巻の「はじめに」本書のねらいが記されています。長文ですが引用します。

現在では、地球誕生は 46 億年もの大昔であることがわかっているが、これが判明したのは 20 世紀になってからである。地球誕生のプロセスとその後の歴史は、地質学や地球物理学の進展で急速に明らかになってきた。

この過程では、物理学や化学の新しい知識と実験方法が積極的に取り入れられ、旧来の古生物学や地質学は、「地球科学」という総合科学に統合されていくことになる。その後、地球の歴史は地球だけを見るのではなく、月をはじめとして太陽系のメンバーである火星や金星などの惑星を研究することで解明されていった。ここで地球科学は「地球惑星科学」というもう一つ上位の学問への統合を果たしたのである。

地球の内部は固定されているのではなく、現在でも変化し続けていることが研究の進展とともに明らかにされた経緯を特に興味深く読みました。

1960 年代から、多様な地球表面をプレートとして一括して捉える「プレート・テクトニクス」が發展します。地球の表面がプレートによって更新されている考え方を持ち込むことで、それまでの地球は固くて動かない塊という見方から、軟らかくて動きやすいものへと、見方が 180 度転換します。(上巻 P.143 ~144)

その後、21 世紀初頭になって、深さにして 3000 km に及ぶマントルの中心で大規模な対流運動が起きていることが判明します。マントルの内部には、何千万年から何億年という長大な年月をかけて対流している。これらは煙が上昇するような形状をとることから「プルーム」と呼ばれ、この様な考え方を「プルーム・テクトニクス」と言います。

プルーム・テクトニクスの特徴は、物質の垂直運動に着目した点にあります。プレート・テクトニクスがプレートの水平運動を明らかにしたことに對して、垂直運動の解明によって地球を「まるごと」捉える事が可能になった。(上巻 P.160)

～*～*～ あとがき ～*～

朋友だより 144 号をお届けいたします。

2 月初旬の昼下がり、久しぶりに上野の国立科学博物館に行きました。マンモス、ケサイ、オオツノジカなどを目撃していたクロマニヨン人が描いたとされるラスコー洞窟壁画展が開催されていました。2 万年ほど前、フランス南西部のヴェゼール溪谷にある洞窟に、躍動感溢れる動物たちの彩色画が描かれたとの事で、漆黒の洞窟の中で手作りランプの揺らぐ灯りをかざしながら、どんな声で何を語りどのような思いで、後世に残るであろうこれらの壮大な絵を描いたのでしょうか。出土された画材や顔料、精巧な道具などと、レーザースキャンなどのテクノロジーを使い、デジタルマッピング技術で復元されて再現した実物大の洞窟壁画展示をこのラスコー (LASCAUX) 展で見て、その線画と彩色の創造性、芸術性に感動しました。そしてこのヨーロッパ人たちがアフリカからの移民であるとの解説に、どこかの大統領とは違って先人たちへの大いなるリスペクトを感じました。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-36-11

千駄木センチュリー-21 602 号

TEL. 03-5815-3021 FAX. 03-5815-3022

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp

URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>